

# 市長と語ろう！ふるさと郡上の未来

～懇談会テーマ「公共施設等の適正管理について」～

市民のみなさんから市長が直接、市政に対するご意見やご提言を伺い市政の運営に生かす「市長と語ろう！ふれあい懇談会」を市内7地域で開催しました。今月号では大和、高鷲、明宝地域の意見交換の一部を要約して紹介します。

## 明宝地域（11月22日）

### 「道の駅明宝」の整備について

◆市民：昨年、「道の駅明宝」は重点道の駅に選定され、今後は観光面だけでなく、買い物弱者への支援などを含めた多目的な施設をめざしていきたいと考えている。建設後年数が経ち老朽化しているとともに、トイレは臭いや入口に扉が無いため夏場に虫が入ってくるなど衛生面においても課題がある。「道の駅明宝」の施設整備、特にトイレの改修をお願いしたい。

◆市長：今後「道の駅明宝」は、高齢者の福祉や、地域の買い物弱者等が買い物のできる施設として配慮するなど、地域の拠点となっていくと考えられる。トイレについては、老朽化しているのは確かなので、改修など必要な対応をとっていかねばならないと考えている。

### 「明宝歴史民俗資料館について」

◆市民：「明宝歴史民俗資料館」は、これまで資料を集められた先人の苦勞もあり、国の重要有形民俗文化財に指定されたものが3500点以上ある。気良歌舞伎の方々が講堂において展示を実施されるとともに、道の駅や温泉などで分散展示を行うなど来館者の増加に努めている。

市内各地域にそれぞれ資料館があり、どの施設も利用者の減少や老朽化により、市にとってお荷物になるのではないかと。資料館の活用や資料の保管等について、市ではどのように考えられているか。

◆市長：「明宝歴史民俗資料館」は、非常に貴重なものが多く収集されているとともに、よく整理されていると思っている。資料館自体が築80年を経過し老朽化しているが、多くの資料を保管している大きな施設であるため、新たに資料館を建てるという事は難しいと考える。人口減少に伴い、今後小中学校をどうしていくかという課題もあるが、これらの施設は耐震性のある施設なので、一部を新たな民

俗資料の収蔵・展示の施設として多機能化していくことも一つの選択肢かもしれない。今後については、他の施設の利用状況などをみながら検討したい。

### 「保育園・小中学校の集約について」

◆市民：明宝地域では、保育園は畑佐地区、小中学校は気良地区および小川地区、中学校は二間手地区と離れている。また、保育園は土砂災害警戒区域のイエローゾーンにかかっていることである。人口減少により、子どもの人口も減ってくるので、将来的に学校教育施設を1箇所を集約してはどうか。また、市では学校施設をどのように集約化していくのか。

◆教育長：保育園・小学校・中学校を1箇所に集めてはとの意見であるが、それぞれが別の場所にあった方が良いということはないか。地域コミュニティの核となる施設を統合等により1箇所に集約することによって、施設の無くなった地域のコミュニティがどうなるかなど、メリット・デメリットを考えなければならぬ。学校の統廃合については、市全体のことを考えつつ、どのように子どもたちに力をつけさせていくかを考えて検討したい。

## 大和地域（11月25日）



### 「公共施設の維持管理について」

◆市民：公共施設の改修や修繕は、市民一人あたりに換算すると多額な負担が必要ということになった。大和地域は道路や上下水道等のインフラがしっかりと整備されていると思うが、今後人口が減少していくなかで、公共施設等は維持管理していくことができるのか。

◆市長：建物や道路等をどのように維持管理していくかが課題である。特に、市道として管理している橋については5年間で一巡するよう点検を行い、必要な修繕を行うこととしている。また、市が管理するトンネルは5箇所あるが、これらについても点検を実施しながら必要な対応を行っていききたいと考えている。



## 【公民館施設について】

◆市民：公共施設の適正化について、郡上の地域性を考えると床面積での比較はできないと考える。公民館活動は、大和地域全体で、また各地区ごとに活動しているため、今後も公民館施設を利用していきたい。また、施設は避難所に指定されていることも多いため、安易な廃止はしないようにするとともに、検討の際には住民とよく相談した上で進めていただきたい。

◆市長：公民館等は、床面積等による数値的判断ではなく、地域ごとの実情についても検討していかなければならないと考える。公共施設の適正化については、財政的な実状も踏まえて検討しなければならぬ。現在使用している施設が老朽化し、大規模改修などの修繕が必要になった際、廃止等の選択が必要になると考える。

## 【民俗資料収蔵施設について】

◆市民：社会教育施設である旧大和第一北小学校に、寄贈により集められた資料が保管されている。こういった施設を廃止し取り壊しを行えば、維持管理費などの削減ができるのではないかと。

◆市長：他の懇談会でも、収蔵施設自体は古い収蔵している農具や民具は貴重なものである

のでなんとかしなければいけないのではないかとという意見をいただいた。高鷲地域では、たかす町民センター内に開拓記念館を開館したが、収蔵するものについては、保存状態が良く貴重なものを選んでいただいている。大和地域においても、専門家などに農具等をみていただき、どこに収蔵・展示するのが良いかなど、教育委員会を中心に検討していきたい。また、農具や民具の活用方法として、学校施設における空き教室を利用して収蔵し、生徒が実際に使用して勉強できるということも良いのではないかと考えている。

## 高鷲地域（11月29日）



## 【斎場について】

◆市民：斎場について、今年度白鳥町に用地を確保されて整備し、今後八幡斎場と白鳥斎場の

2施設で対応していくということであるが、非常に良い考えであると思う。しかしながら、高鷲地域においても立派な斎場があり、仮に白鳥に大きな施設が出来た場合においても、廃止するのはもったいないと考える。維持費を考えた場合には、すぐにも解体した方がよいかもしれないが、市ではどのように考えているのか。

◆市長：斎場については、最終的には現在ある八幡斎場と、現在白鳥町に建設している北部斎場の2斎場の体制でいきたいと考えている。南部地域においては、老朽化している美並・明宝・和良の斎場を本年度末で閉鎖する。高鷲斎場は、平成18年に建設されており、北部斎場が完成しても、何かあった際に必要な場合があるのではないかと考えられるため、すぐに閉鎖することとは考えていない。

## 【たかす町民センターの修繕について】

◆市民：「たかす町民センター」は、建設後15年が経過し不具合が発生している。ステージでは、小中学生の学習発表会や合唱発表会が開催され児童・生徒の笑顔が見られるとともに、太鼓大会やふるさと祭りの会場でもあり多くの方が訪れる施設であ

る。修繕には費用がかかることは理解しているが、計画的な修繕を実施していただきたい。

◆市長：施設は経年により傷んでくるので、必要な施設については、適正な管理を行うための故障してから修繕を行うのではなく、計画的な修繕を行っていかねばならないと考えている。「たかす町民センター」は、今後市が管理していく施設の中においても高鷲地域の拠点となる施設であり、不要になることはないと考えている。予算面について課題はあるが、施設の傷み具合を確認しながら修繕等を実施していかねばならないと考える。

## 【たかす開拓記念館について】

◆市民：「たかす開拓記念館」は、なぜ土日に開館していないのか。高齢者が息子たちに連れてきてもらうためには、土日のような休日となる。せっかく来たのに休館しており残念だという意見を聞いた。また、長野県阿智村の「満蒙開拓平和記念館」などとの交流を積極的に行っていただきたい。

◆市長：「たかす開拓記念館」は当初、開拓資料室という形で設ける想定であったため、現在はあくまでも「たかす町民センター」の管理の一環として行っ

ている。入館に関しては、前もって予約いただければ開館することとしている。教育委員会として、「たかす開拓記念館」を独立した公の施設として条例を整備する必要がないかなど検討している状況である。

◆教育長：教育委員会としても、開館日について条例等整備したいと考えている。

◆市長：他の記念館等との交流については、今後の「たかす開拓記念館」の質を高めることや、連携を図っていくために良いことと考える。

## 【高鷲庁舎について】

◆市民：高鷲庁舎は老朽化しているが、災害時や市民に何かあった際の重要な基地である。耐震性がないことや電気機器の老朽化などについて、早急に対応していただきたい。

◆市長：市役所庁舎の内、耐震化未実施の庁舎は高鷲庁舎と美並庁舎であり、これらの施設をどうするかについては課題と考えている。高鷲庁舎は、半地下の変則的な構造となっており、耐震化が難しいとともに、経費もかかるようである。部分的な耐震化を行うのか、庁舎全てを今後に残すという考えで改修を行うのかなど検討しなければならないと考えている。